



四季

3月増刊号（卒業式・修了式）

～四中の季節～

教育目標 ●自分で考え進んで実践する人間 ●公共心に富み情操豊かな人間
●勤労を尊び責任を重んじる人間 ●健康でたくましい人間

令和6年3月25日発行
校長 関 勝 志
〒187-0045
小平市学園西町1-3-1
☎ 042 (341) 4344
Email gakkou@34.kodaira.ed.jp

令和5年度 第58回卒業式 校長式辞（抜粋）

校長 関 勝 志

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

皆さんが入学したのはオリンピックイヤーでした。水泳の池江璃花子選手が白血病の苦難を克服してオリンピック代表の座を手に入れたことから、目標に向かって努力し続けることについて入学式でお話ししました。そして皆さんは、規律と協調を重んじ、弛まぬ努力により、堅実な学年を築き上げてきました。とりわけ校外学習や行事においてルールを守り協力する態度はとても立派でした。3年生になると、さらにその力をいかに発揮し、生徒が主体となって創り上げた運動会は、小平四中の新しい時代の幕開けを感じさせるものでした。そして迎えた合唱コンクール、学年合唱「大地讃頌」の歌声に心が揺さぶられ、熱いものがこみ上げてきました。あの感動は生涯忘れることはありません。

さて、皆さんは「地球は青かった」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。1961年、人類史上初めて宇宙に到達した宇宙飛行士の言葉です。その8年後、人類が初めて月に降り立ち、月の石を地球に持ち帰りました。月は古くから和歌に詠まれるなどして、日本人に愛されてきました。最も身近で特別な星です。その月を目指し、将来的には人類を火星に送ることも見据えたアルテミス計画が、いま地球規模で進められています。そんな中、今年の1月に日本（JAXA）の小型探査機スリム（SLIM）が月面への着陸に成功しました。地球から月までは約38万km。遠く離れていますが、目標地点に精度100m以内でピンポイント着陸させるという至難の業をやったのです。さらにそのひと月後にはH3ロケットが打ち上げに初めて成功しました。日本のロケット開発は、終戦後まもなくして、「宇宙開発の父」と呼ばれた糸川英夫博士によって始められました。1955年、最初に開発されたロケットは長さわずか23cmのペンシルロケットでした。H3ロケットは全長63mです。およそ70年の間に数多くの挑戦と失敗を重ね、ここまで発展してきました。

糸川博士は、『人生で大切なのは失敗の歴史である。』という言葉を残しています。

皆さんが歩んできた義務教育9年間の道のりにも、多くの挑戦と失敗、そして様々な学びがあったことと思います。楽しい経験をした人は、やる気を得ました。悲しい経験をした人は、思いやりの大切さを知りました。目標を達成した人は、自信をつかみました。辛い思いをした人は、耐えて諦めない底力を身に付けました。学校生活に不安や苦手があった人も、自分に合った学びの場を見つけ、人生にしっかりと向き合い、進む道を決めました。

『目標に向かって、一段ずつ階段を上がっていく上で、いちばん肝心なことは、必ず、最初の一段を上がるということである。そしてまた次に一段上がるということである。』これも糸川博士の言葉です。

何かを成し遂げようと思ったとき、自分の目標に向かう一段目は何なのかを、しっかり見定め、大切な一歩を踏み出してください。

『卒業生を送る言葉』 在校生代表 上垣 新

巣立ちの日を迎え、早春の日差しをあたたかさ、より一層感じられる季節となりました。

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

春を迎えると、私は期待を胸に入学してきたことを思い出します。まだ四中のことを何も知らず、不安だった私たちに、皆さんは優しく丁寧に接してくださいました。とても安心して、これからの学校生活に胸を膨らませたことを今でもはっきりと覚えています。3年生は、私たち在校生にとって憧れの存在でした。

今年度の運動会。むかで競走の迫力とみなぎる緊張感に圧倒されました。一人一人、歩幅も歩くスピードも違うのに、一人でも足がずれてしまったら止まってしまう。クラスの仲間のことを思いやり、息を合わせ、声を合わせ、心を合わせる。3年生の姿を見て心が震えました。強い友情と、最高学年の底力を感じ、私も3年生のようになりたいと強く思いました。

そして合唱コンクール。私は実行委員を務め、3年生の合唱のアナウンスをしました。舞台袖から聞こえる合唱。中でも3年生全員で歌った大地讃頌は、学年一人一人の、合唱コンクールを絶対成功させようという強い気持ちが歌声に乗って、私たちに伝わってきました。その姿から3年生が三年間をかけて築いてきた強い絆を感じました。

私が1年生の冬。その年の意見発表会の運営校は四中でした。私は司会を務め、ルネこだいらの大きな舞台上、緊張で足が震えていました。そんな時、ある先輩が、「大丈夫」と優しく励ましてくれ、その言葉に勇気をもたらしました。生徒会活動で私は後輩への接し方を学び、3年生からもらった優しさを、次は後輩に分けていきたいと決意を新たにしました。

しかし、明日からは私たち2年生が皆さんにかわって四中を支えていく番です。皆さんと過ごしたかけがえない日々、その中で教えて頂いた沢山のことを胸に刻み、後輩の「憧れの存在」になれるよう努力していきます。バトンは確かに受け取りました。

皆さんは、いよいよ今日から新しい希望の道へと歩きます。三年間を共に過ごした離れがたい友とも別れ、自分の選んだ人生を歩むことは簡単なことではないかもしれませんが、だから、忘れないでください。四中で学んだことを、四中で得た友情を、四中の思い出を。在校生一同、皆さんのことを応援しています。

さて名残はつきませんが、いよいよお別れの時です。これからの皆さんのご活躍と輝かしい未来をお祈りして、私たち在校生からの贈る言葉とさせていただきます。

『巣立ちの言葉』 卒業生代表 天野 瑠七 前田 崇介 深川 愛莉 阿久津 花圃 丹羽 博音 浅川 航平

2021年4月7日、入学式の日、私は初めて北校舎最上階の1年B組の教室に足を踏み入れました。そこには新しい仲間がいました。よく知らない人ばかりで緊張したまま入学式を終え、写真撮影になったとき、カメラのまぶしいフラッシュがたかれました。その時、となりに座っていた芦澤さんが「今のすごくまぶしかったね～」と話しかけてくれました。それだけの言葉でしたが、私の緊張は和らいでくれました。これが、中学校生活での最初の思い出です。

新1年生だった私には、中学校のすべてがこれまでとは違ったもの感じられました。特に「他の小学校から来た人達」とは、どのように関係を築き始めればよいか分かりませんでした。でも、今になって思うと、最も基本的な挨拶が、仲間との関係を築くのに一番役立った気がします。小学校の頃から「挨拶は大切」と言われ続けていた意味を、より深く再認識できたのはこの時期だったと思います。

2021年は、まだ新型コロナウイルスの影響を大きく受けた年でした。給食は全員が前を向いたまま黙って食べ、学年別運動会、スキー教室の延期など多くの制限、中止がありました。しかし、部活動や学級活動などの場面で人間関係を広げていくことができました。また、なんとか実施できた川越校外学習では、各班で計画を立て、川越の蔵造りの街並みを散策しました。途中、川越八幡宮でおみくじを引き、班員みんなで盛り上がったのもいい思い出です。

よく、「1年生の3学期は2年生の0学期」といわれます。「あたり前のことをあたり前に」。当然のことのように思われますが、そう簡単ではありません。今でも完璧とは言い切れませんが確実に第1学年を通して成長することができました。

中学校の一年は小学校と比べてはるかに短かったです。しかし、その短い一年の内に、続く二年間の学校生活の基盤を作ることができました。

2学年に進級すると、それまで6クラスだった学級数が5クラスになり、新しい仲間との出会いがありました。その新たな仲間と共に中学校で初めての全校での運動会を行いました。

2学期になると、徐々に先輩達とかかわることが減り、自分たちが中心になって物事を進めることが増えてきました。少しずつ自分たちが四中の中心として、いろいろな役割を任されるようになりました。

特に私は委員会活動の中で「学校の中心」になっていくことを強く感じました。例えば、2学年学級委員会の発案で卒業する3年生へのメッセージを作成し、贈呈することになりました。1年生と合同で作っていく中で、意見をまとめたり、サポートしたりと、いろいろなことが必要になりました。初めはあまりうまくいきませんでした。しかし、みんなで協力しながら自分ができることから少しずつ取り組んでいき、結果として3年生へのメッセージカード作りと贈呈の会はとてもよいものになったと思っています。

3学期には、1年遅れのスキー教室がありました。クラス混合で3日間スキーを楽しみ、友達の新しい一面を知ることができた人も多かったと思います。天気にも恵まれ、東京では味わうことが難しい自然の素晴らしさをそれぞれ満喫しました。

いよいよ3年生の三文字が目の前に迫ったころ、2年生最後の思い出づくりに都内めぐりに行きました。慣れない都心の電車を乗り間違え、班員みんなで焦ったことや、すみだ水族館のクラゲがとてもきれいだったことを、今でも覚えています。

中学2年生の一年はコロナ禍にあった状況から、行事も少しずつ復活し、そしてまた私たちの学年が委員会活動や部活動において学校生活の中心として活動できた年でもありました。そういう意味でもとても充実した一年間であったと思います。

支え合い、困難もともに乗り越える「仲間」という存在の大切さとすばらしさ。私はそれを三年間の部活動を通してとても強く感じました。私は剣道部に所属していましたが、初心者であったため基礎の技練習などの地道な練習を積み重ねる必要があったり、試合で負けることも多くありました。心がくじけそうになる瞬間もあった中でそれを乗り越えることができたのは仲間の存在があったからです。一人で努力するのではなく互いに励まし合いながら共に努力していく。あたり前のようにだけれど私にとって一人じゃないということがとても心強かったのです。仲間がいなければきっと三年間剣道は続けられなかったと思います。

そしてもう一つ、私が試合で勝利した時に毎回のように笑顔で、よかったね。しっかり技決まっていたよ。と周りの仲間が言ってくれたこと。自分のことのように一緒に喜んで、声をかけてくれる姿を見てその度に仲間の大切さを実感しました。そしてそんな仲間のためにまた頑張ろうと次を目指すきっかけにもなりました。たった一言の声かけでも私にとっては大きな力になっていたのです。

また、初心者だった私が三年間剣道を続けられたのには上釜先生、前田先生や藤井先生、市川先生の存在もありました。試合や練習の時に一人一人に丁寧に細かいポイントまでアドバイスしてくださったおかげで技が身についたり、勝利することができたのです。心身ともに未熟だった私たちを導いてくださった先生方には本当に感謝しています。

私にとって部活動とは新しい自分に成長することができる重要な場でした。様々な困難があり、それを克服していく経験をしました。信頼する仲間がいて、ありのままの自分でいられる場でもありました。剣道部でのかけがえのない三年間、そしてそこで得たものをこれからも大切にしていきます。

全員で一斉に息を吸い歌い始めたその瞬間から私は鳥肌が立ちました。10月27日、ルネこだいらでの合唱コンクール午後の部は私たち3年生の学年合唱からスタートしました。学年合唱というもののイメージがまったくない中、どうやったらバランスよくパートの声が聞こえるか、どうやったら全員の声をそろえて一体感のある合唱にすることができるのかを考えながら練習を重ねました。本番では、ゼロからつくりあげた私たちの「大地讃頌」がホールに響き「歌っていて気持ち良かった」と心から思いました。

5月に行われた運動会でのムカデ競走も、私たちにとっては実際に競技することはもちろん、目にすることも初めてでした。新しいクラスになったばかりでチームワークという言葉からはほど遠い状態から、みんなで心をつなげて走るのとは簡単なことではありませんでした。B組の私のチームでは、意見がそろわず思うように練習が進まないことがありました。それでもあきらめずに競技を全力で楽しむことをモットーとし、みんなで声を掛け合い本番に臨みました。ゴールしたとき、今まで頑張ってきたことが報われたような気がしてとてもうれしかったことを覚えています。

私たちは行事を通して様々なことを学び、成長してきました。何もかもが新しく見え、少し緊張した1年生。初めての後輩ができ色々なことに段々と慣れてきた2年生。そして3年生になると、全ての行事をコロナ前と同じように実施することができるようになり、全員の熱意がより高まったと感じました。また、全ての行事に最後という言葉が付き、名残惜しい気持ちもありました。だからこそ、3年生では勝ちたい、頑張りたいという思いが強くなりました。力を入れて取り組んだ練習を通してクラスの団結力が上がっていき、仲間との信頼関係が生まれ、本番では練習以上のパフォーマンスができたのだと思います。私たちは仲間と一つの目標に向かって頑張ることの大変さと大切さを学びました。そして、共に頑張ってきた仲間に感謝を伝えたいです。

3年生になり、部活を引退し、私たちを待っていたのは受験でした。自分と向き合い努力することの難しさに戸惑い、立ち止まってしまうこともありました。でも、朝早く登校して勉強したり、休み時間に勉強したりする仲間の様子を見て、「つらいのは自分だけじゃないんだ」と心に言い聞かせて頑張る勇気ももらっていました。

しかし目指していく進路が決まってくると現在の自分と比較してさらに不安になることもありました。そして、入試本番が近づくにつれ焦りが出てきてしまい、今までやってきたことが正解かどうかわからなくなり、うまくいかないことの方が多くて暗い気持ちになる日が続きました。そんなとき、私は進路など考えたくないことから逃げたり、母とぶつかってしまうこともよくありました。それでも家に帰ったときに冷蔵庫を開けるといつもおにぎりが入っていました。毎回は言えなかったけど、おいしかったよ。母はどんなに忙しいときでも私が困っているときには一緒に悩んで話を聞いてくれました。その支えのおかげで受験という大きな壁と闘いつづけることができました。

そうして迎えた入試本番。極限緊張状態にあった私の背中を押してくれたのはブレザーの胸ポケットに入っていた一通の手紙でした。そこには、「笑顔で戦ってこい！」の言葉がありました。

こうやって不安を和らげてくれるその温かさが本当に嬉しくて、普段は恥ずかしくてあまりいうことができなかったけれど何度も何度も心の中で「ありがとう」と繰り返していました。

家族のみんな、いつも側にいてくれてありがとう。誰よりも応援してくれてありがとう。家族のみんなのおかげでここまでくることができました。本当にありがとうございました。

やわらかな日差しと、春のあたたかさを感じる今日、私たちは卒業の日を迎えました。卒業生のみなさんはいどのような思いで今日という日を迎えていますか。私は誇らしい気持ちと共に不安も抱えています。これから私たちは生活する環境が変わっていき新しいスタートを切ることになります。「新しい環境の中で上手くやっていけるのか」「明日も変わらずに四中に通いたい」と思ってしまいます。このように思うのは私だけではないと思います。みんな同じ気持ちだと思います。ですから、焦らずにそれぞれのペースで前に進んでいきましょう。環境が変わっても私たちは築き上げてきた思い出は変わることなく、私たちの心に残り続けます。そして、その思い出は新しいスタートを切る私たちの背中をそっと押してくれることでしょう。

義務教育を終えた私たちは将来自分が何をしていきたいのか考えることが求められていきます。ですが、私は「今を大切にすること」を、まずは心がけていくべきだと思います。今、やらなければならないことをきちんとやり、やりたいと思ったことを勇気を出してやっていくことが大切だと思います。目の前のことを一つ一つ進めていくと、自分の将来につながっていく何か少しずつ見えてくるのではないのでしょうか。その時、感じた思いや気持ちに素直になり、悔いのない選択をしていきましょう。やってみた結果が良くなかったとしても、その経験は自分自身を大きく成長させてくれるはずですよ。そこから新しい学びや発見、出会いが増えていき、自分の世界がどんどん広がっていきます。様々なことに挑戦していきましょう。

様々な思いを胸に私たちはこの小平第四中学校を巣立ちます。最後になりましたがいつも一番の味方でいてくれたお母さん、お父さん、楽しいことも辛いことも一緒に過ごしてきた学年のみんな、いつも私たちのために想って動いてくださっていた先生方、そして、私たちの中学校生活にたずさわってくださったすべての方々、本当にありがとうございました。

■「心」の交流セレモニー■

3月15日（金）、1・2年生から3年生へ卒業を祝うメッセージを渡すセレモニーが行われました。この日は卒業式予行が実施され、全校生徒が一堂に会する最後の日でした。1・2年生からお祝いと感謝の気持ちを代表生徒が伝え、3年生へメッセージを渡しました。3年生からもお礼の言葉と、1・2年生へのメッセージが渡されました。お互いの気持ちを交換し合うことができ、バトンがしっかり引き継がれました。温かい心が通い合う、とても心地よい時間でした。

行事や日々の活動等を通して、クラス、学年の団結力を高めてきましたが、卒業式予行や交流セレモニーを通して、3つの学年全体が一つになり、学校全体で一体感を感じる素晴らしい時間を過ごすことができたのではないかと思います。



■生徒の活躍■

【地道な活動を継続的にやり、他の児童・生徒等の範となる者の表彰】東京都教育委員会
3D 奥澤 雄音（第50回全日本中学校陸上競技選手権大会 男子走幅跳）

【スポーツ優秀選手】東京都体育協会
2B 小熊 健祐（第61回全国中学校スキー大会 大回転 優勝）

【小平市教育委員会表彰】小平市教育委員会
3D 奥澤 雄音（第50回全日本中学校陸上競技選手権大会 男子走幅跳）
1D 藤井 日菜乃（第51回関東中学校陸上競技大会 1年女子100m）
2C 尾嶋 陸王（第54回春季全国大会埼玉県西支部予選）
2B 小熊 健祐（第61回全国中学校スキー大会）

【体育優良生徒】東京都体育協会・東京都中学校体育連盟
3D 奥澤 雄音 / 3A 柴田 理子



＜小熊健祐さんの市長表敬訪問＞

吹奏楽部 文部科学大臣賞 第26回日本ジュニア管打楽器コンクール 出場 3B 野山 莉香
※ソロ中学生部門「クラリネット」において日本で12人に選ばれました。

陸上競技部 第1回南関東中学校陸上競技大会 女子中学共通100mH 4位 2A 力石 依里香
女子中学1年100m 2位 1D 藤井 日菜乃

剣道部 第10ブロック中学校冬季剣道連錬成大会 男子団体 3位 Aチーム

スノーボード（個人） FISスノーボードジャパンカップ2024 SAJ公認 JR-A 3位 巻井 一真